令和7年度 外部評価報告書 (令和6年度事務事業)

川西町まちづくり委員会

学物学来の一個一個人が中央一個人が 1000円														
分野別目標	1. 「集	まる」また	5をつくる (ひ	とづくり)	1. 「集まる」まちをつくる(ひとづくり)				3. 「挑戦する」まちをつくる(しごとづくり)					
施策の柱	1「未	来を担	旦うひとつ	5くり」	1「未来を担うひとづくり」				2「相互に連携する産業づくり」					
施策名	1「まち	づくりを	支える人材の確	保•育成」	2「人	をつなげ	る交流の	D促進」	2「もの	つづくりを	育む工業	美の振興」		
事業名		定住移	8住促進事	業	重	の暮らし	ン推進事	業	雇用対策事業					
各委員評価結果		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値		
事業の必	事業の必要性		3	4	4	4	3					3.333		
事業手法の	事業手法の妥当性		3	3	4	3	4					3.167		
事業の周	別度	1	2	2	1	2	2					1.667		
事業の効	加率性	2	3	2	2	2	3					2.333		
成果		2	3	3	2	2	3					2.5		
継続 見直改 善)	会後の方向性 結果 (委員選択数) 1 ○ 4		委員の主な意見	・感・移・・施・で ◆・い・必・ 人じ移住高移策アき 雇雇な企要持 原い希増者メルクも 対者事か 可	は少る。 望かはいる がいる ではいのというででである。 はいのというでである。 はいのというでである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	こし にいます これで はい これで という いっぱい こう	バラフィック ままり かい はい かい まま かい まま かい かい かい はい かい かい はい	思識してい アを考える シニア、リ 京を表面化 が求ながない でないには、	Nるが、成 の年齢層が の特化 の特化 の特化 の特化 のもの である。 のもの のもの のもの のもの のもの のもの のもの のも	が多いが、 とすること 記択肢に含 拡大、そ 対象者側か 別知方法の	た機感を 若もある て い認知 直 し 知知 直 り 組み の ま は し か が の ま の の の の の の の の の の の の の の の の の			
見直し (拡 大) 見直し (縮小)	・定住移住促進の事業内容を評価しているが、がある。移住者視点からみた町の強みや移住することを強くPRすることが重要である。町外して、選択肢の1つに選ばれるように、広く見きたい。 総 ・空き家バンク運営については成果が上がって・若者の故郷回帰を促すための雇用対策を積						が、認知度 注者のニー 外の人にが 周知の強 っていると推 いる部分も	- ズに対応 川西町が 針化を図っ 注評価され もあるが改	できてい 移住先と っていただ いる。 な要があ					
廃止、休止					◆雇用対策事業について ・移住定住を進め、持続可能なまちづくりを目指すために雇用対策事 を継続していただきたい。特に、対象者側が認知していない事業が見 けられるため、周知方法を見直していただきたい。									

分野別目標 2. 「楽しい」まちをつくる(ちいきづくり) 施策の柱 5. 安全で安心な暮らしづくり												づくり	
施策名	1. 既	5災体制	制の充乳	実			事業名	防災対策事業 消防団員活動支援事業(ただし、 消防団員を参集しての活動の実施状況 のみ)					
各委員評価結果		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	
事業の必要性		3	4	4	4							3.75	
事業手法の妥当性		3	4	3	4							3.5	
事業の周知度		3	4	4	4							3.75	
事業の効率性		3	3	3	3							3	
成果		3	3	3	3							3	
継続して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対	接の方には、		1 3	委員の主な意見	住意襲・た周で応・通助べ・知・動即・員民識か有め知き等有信金き平ら消のし消のがのら事のしるに事手をで時せ防たた防確	(防向継の準、。)使に段活あ、る団め活団保災上続際備即資用おは用る有手活の動活の	イの可にが座材すい命し。事段動体へ動ン充能即必にをるて綱て にのに制のにフ実な座要必必こ、とい 関構つ整転つ	うに話こが要要に切なる、つぎい精酔い団を期動対あなな等やるが、らをてやがて員十待と応るも場)自。、 ず引は消必、の分。すて。の所、主自田、、き、防要総負	に消べきのがに 時主が 必続持句で続担活防くる例必必 災防責 要き続員あ可軽用医見り:要要 会災任 を行う確る削減	目別の 「原存」を発生しているのでは、でのででのである。 たいでの 活図を というという にいての 活図を接かと品難に 備はっ 必要効だ 動る	とそうに出生に 情なっ からから からめ事必ソ格者提 ・そて 要が率め のべに業要フ納へ供 運の配 なあ的に 確き必は ト場摂し 用整備 情るなも 保、	消防団活 5、時代に 9・消防団 特に、だ	
見直し (縮小) 廃止、休止				総合評価	防る に的のめ を動災と引、確向、消守のが評さ当に上そ院る確	 策価続該活をの団た保代 事すき事用常強員めとに	業る、業し日化活に団に。有で、頃を動重員の事整町が図支要のでは、現を動重員のでは、	へ いた いた で の しん で の しん で の しん 生る い 業 割 と で ま と で ま と で ま と で で ま と で で と で と で	一 をいっとだった 継がを がっと とここ とここ とここ きょう こう	程度 し備を要いは防員の で。、団の 関員の 関目の での 関目の 関目の での での での での での での での での での での での での での	i 効 に 巻 かった	と能 に 下 下 下 で に に で に に で に に で に の の の の の の の の の の の の の	

分野別目標	1. 「第	[まる]	まちをつ	くる(ひ	とづくり	施 施	策の柱	3. 子どもが夢を持ち健やかに育つ環境づくり					
施策名	1. 글	² 育てE	環境の発	充実		<u>=</u>	業名	こども家庭センター事業					
各委員評価結果		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	
事業の必要性		4	4	4	4	4	თ					3.833	
事業手法の妥当性		3	3	1	2	4	4					2.833	
事業の周	事業の周知度		2	2	2	2	2					1.833	
事業の効	事業の効率性		3	2	1	1	2					1.833	
成果	1	2	3	4	2	2	2					2.5	
	き後の方 結果		員選択数)		の ・子育てや家庭内の問題に対応するこども家庭センター事業の業務内容が多すぎる。 ・人員不足により業務の選行が困難なば氾ざする。								
継続				委員の主な意									
見直し (改 善)	0		3	・現住の事業展開において認知度が低く、十分が整っていない。 ・町民への周知度が低いため、周知策の改善がる。 ・これからの川西町の未来のためにも、もっとと連携が必要である。									
見直し (拡 大)	0	3			り、持 ・専門 職の不 ・人員	続可能 性の高 足によ の増員	な地域: さや重要 るサポー や専門!	づくりに 要性にも ートの ^ス 職へのも	こ貢献し らかかれ 下十分さ	っている つらず、 さが課題	と評価 人員不 である	足や専門	
見直し (縮小)				総合評価	特にすべ子供保護課題	ていただきたい。 に人員については、町内にて公認心理師を早急に配置きである。 供の健全な成長には適切な家庭環境が不可欠であり、 者が問題を抱え込まないように支援環境を整えること 題である。相談しやすい環境を整備するなど諸問題を するためにスピード感を持って取り組み、支援体制の							
廃止、休止					町民 れる。 するこ である	への周 だが、 とやデ 。早急	知度が作 周知策の リケー	低いた& の改善の トな案件 したのな	か、周知 か前に、 非に対応 かに、 子	膨大な	業務量 :台作り	要と思わを細分化が最優先ターの周	

分野別目標	1. 「缜	[まる] :	まちをつ	くる(ひ	とづくり)施	策の柱	3. 子どもが夢を持ち健やかに育つ環境づくり					
施策名	2. 地域	域•家庭	学校が	連携した	教育の推	進	掌業名	学校·家庭·地域連携協働推進事業					
各委員評価結果		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	
事業の必要性		4	4									4	
事業手法の妥当性		3	3									3	
事業の周	事業の周知度		3									3.5	
事業の郊	事業の効率性		3									3.5	
成果	2	3	3									3	
継続 見直し (改善)	き後の方 結果 〇		夏 選択数)	委員の主な意見	・学校・家庭・地域連携協働推進事業に関して家庭・学校とが連携して子ども達を教育しよる業の目的にそって推進されており、かつ、概れ移していると判断した。 ・当該事業のコミュニティスクール活動では、(つまり、一人を実務の一部を担うことで、先生の本来業務の、地域・地域・地域・地域・地域・地域・地域・地域・地域・地域・地域・では解決が困難な課題の解決に参して、当該事業のは、地域・また、当該事業の課題として、高齢化が進むって、地ではない。当該事業として、高齢化が進むでは、地ではなる。当該事業の課題として、高齢化が考えられるを確保、スムーズな世代交代などが考えられるに解決方法の検討を進めていただきたい。							と順 地甲受いでるき域域き後めす調 域し業る、こた住全るの、るに 人、準こ学とい民体が人課事推 材学備と校か。がで、員題事	
見直し (拡大) 見直し (縮小) 廃止、休止				総合評価	子活て・た雑果き・フる・る・たつど性お当事化にてまし。今と「ちなも化り該業すよいたイー後考子のが	たを、事がるるる、ルーのえど目りち図か業効学、も住予ー課るもに、をるつの果核先の民防一題だだら町	育」、各的内生と参に はめちつ成と概種にのの判画も 、、のるすいね取展課本断に効 高対育こ	るう順り開題来でよ果 齢策成と活と事調組さ解業きるが 化をにで力と業にみれ決務る地波 が速地「に	も目推に、やへ。域及(進や域シなに的移お子先の)のし(むか全ビっ)、にしいど生注(活て)中に体ッて	地沿ててものカー性い で検でクい域っい、の負と 化る の討取プくのてる地育担働 やも 継をりラと	コ事と域成をき 、の 続い組ミ業評人、軽方 携と 性たむっが価材多減に わき のだ姿	を様さも るえ 確き」の活化せ寄 住ら 保たが醸用・る与 民れ でい子成し複効で の あ。供に	